

【シラバスⅡ】令和7年度 評価規準

教科名 保健体育		科目名 体育（1年）		
時期	内容のまとめ	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
4～5月	【体づくり運動】 ・集団行動 ・大高体操 ・新体力テスト	○体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。 ○運動を継続する意義、体の構造、運動の原則が理解できる。	○単元の特性を踏まえた自己や仲間、チームの課題を発見できる。 （「課題」の例） ・運動構造、体力向上面 ・自己の技能や基本動作について ・相手やチームとの攻防場面	○自主的に取り組むことができる。 ○競技のルールやマナーを自らの意思で守ろうとしている。 ○フェアプレイを大切にしようとしている。 ○結果や勝敗などを冷静に受け止めることができる。 ○作戦・戦術などについての話し合いに貢献しようとしている。 ○一人一人の違いに応じた運動・プレイ・挑戦を大切にしようとする。 ○互いに助け合い教え合おうとする。 ○自己の役割や責任を果たそうとしている。 ○健康・安全を確保している。
(A) 6～7月	【球技】 <ゴール型> ・サッカー ・バスケットボール ・ラグビー <ネット型> ・バレーボール ・テニス (B) 8～9月 (C) 12～1月 (D) 2～3月	<ゴール型> ○安定したボール操作や空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。	○合理的な課題解決に向けて運動の取り組み方を工夫できる。 （「取り組み方の工夫」の例） ・効果的な練習方法や技能習得方法 ・必要な準備、補助運動の選択 ・体調や環境に応じた活動の工夫 ・得た知識の活用 ・振り返り、修正、改善の方法	
(B) 8～9月		<ネット型> ○役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって、空いた場所をめぐる攻防ができる。	○考えたことを他者に伝えることができる。 （「考えたこと」の例） ・有効な技能や作戦戦術 ・役割分担とその成果、改善点 ・合意形成のための関わり方 ・仲間とともに楽しむための方法 ・運動を継続するための関わり方	
(C) 12～1月		<共通> ○技術や作戦・戦術の名称、行い方を理解できる。	○相手への尊重とよりよい所作についての振り返り（武道） （「伝える」方法の例） ・仲間やグループで話す ・プレイ中や観察中の声かけ ・記録カードや学習カードに言葉や文章で表現し共有する	
(D) 2～3月		【武道】 ・柔道	○相手の動きに応じた基本動作、既習技、新たな基本技、連絡技を身に付け上達させることができる。 ○自由練習や簡易試合で攻防を展開できる。	
10～12月	【陸上競技】 ・長距離走	○体力の高め方を理解できる。 ○自己の体力や技能の程度に適したペースを維持して走ることができる。 ○力みのない走行姿勢や走りのリズムを作れる呼吸法を身に付けることができる。	○習得した知識を活用することができる。 ○概念と自己の状況を関連付けて課題を発見することができる。 ○課題のよりよい解決に向けて思考し判断できる。 ○思考判断したことを言葉や文章表現によって他者に伝えることができる。	
年間	【体育理論】 ・スポーツの特性 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ・スポーツライフ設計	○スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について理解できる。 ○技能と体力の関連、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを理解できる。 ○技能の上達過程段階に応じた練習・運動観察・課題の設定方法があることを理解できる。 ○運動時の様々な危険を予見し回避することができる。 ○ライフスタイルに応じた関わり方を見つけることができる。	○学習に自主的に取り組むことができる。	
主な評価方法 【全領域（単元）共通】		(1)取り組み方・言動（技能）の観察 (2)スキルテスト／技能テスト (3)記録／学習カード （記述の仕方や内容等）	(1)取り組み方・言動の観察 (2)記録／学習カード （記述のしかたや内容等）	(1)取り組み方・言動の観察 (2)記録／学習カード （記述のしかたや内容等）
その他 (1)各観点は「主な評価方法」に挙げる項目によって、領域ごとに総合的に評価する。 (2)「体育理論」は、年間を通し各領域の中で横断的にその内容に触れたり、実施種目の特性に応じて適宜扱う。				